

2019年1月7日

2018年度 ミャンマー看護研修生 研修報告書

藤田医科大学病院
看護部長 眞野 恵子

1. 研修期間

2018年12月3日（月）～12月31日（月）
土日、祝日、年末を除く

2. 研修生

2名

- ・Moh Moh Aung 41歳 女性 ヤンゴン総合病院 脳神経外科病棟看護師（助産師資格）
- ・Myo Thinza Win 38歳 女性 ヤンゴン総合病院 脳神経外科病棟看護師（助産師資格）

3. 研修内容

詳細なプログラムや研修指導者について、添付資料（2部）参照

4. 研修評価

研修としては、主に脳神経外科領域における看護の見学実習を行った。研修場所は、中央手術室、脳神経外科病棟（A-7N）、NCU、リハビリテーション病棟、放射線科（血管内治療）などの急性期、回復期、慢性期にわたる健康段階に応じた看護を経験できるよう計画した。研修については、見学だけではなく、指導者のサポートにより看護実践ができるような配慮を看護長へ依頼をした。

研修中は、研修する病棟のスタッフが英語通訳できる環境を整え、同行できるようなスケジュールを組んだ。英語での会話が難しい場面が多々あり、英単語をミャンマー語のアプリで変換し対応を行った。また、研修生自身が先に来日しているミャンマーの研修生から情報収集を行うことで研修場面の理解をしていた。

看護部主催の研修の参加や食事会の招待、昼食を持ち寄った看護師との座談会で異文化の交流を行った。研修には通訳がいない状況ではが、出来る範囲で英訳をした資料を作成し対応をした。座談会が研修の翌日であった為、日本とミャンマーの死に対する気持ちや準備の違いなどを話し合う機会を持った。しかし、ミャンマーの文化や医療の中で終末期医療の概念がないため、理解できない部分が多い様子であった。また、最終日のセクション見学においては、脳神経外科領域にとどまらず多領域にわたる施設見学を行った。日本の医療との違いと語り、多くの学びを整理しながら時間を過ごすことができた。ER 外来では、ドクターカーや交通外傷の際に使用する部屋や器材等を説明した。

各セクションの研修指導者やスタッフにとって、今回の交流を通し他国の看護を学び、国際的視野を培うことができた。

以上

【研修中の様子】

